

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第21回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2010年12月15日 (水) 13:30～17:10

2. 場所 日本原燃株式会社 東京事務所 第一会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)

(出席委員) 柳原主査, 岡本(副主査) (15:15～出席), 竹野幹事, 大浦, 柏木, 伊藤, 坂下,
櫻井, 七田, 目黒, 中瀬, 大塚, 飯田, 脇, 水越 (16名)

(欠席委員) 武部 (1名)

(代理委員) 北島 (相原代理) (1名)

(常時参加者) 大間, 御子柴, 水井, 花畑, 小足 (5名)

(欠席常時参加者) 藤井, 菊池, 満田, 中山, 天澤, 木原 (6名)

(常時参加候補) 松澤 (1名)

(傍聴) 遠藤, 岡, 森山, 吉田, 鯉淵 (5名)

(事務局) 谷井

4. 配付資料

F9Ph2SC21-1 第20回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案

F9Ph2SC21-2-1 原子燃料サイクル専門部会の活動状況

F9Ph2SC21-2-2 標準委員会の活動状況

F9Ph2SC21-3 人事について

F9Ph2SC21-4-1 附属書 C(参考) 廃棄物の前処理方法の例

F9Ph2SC21-4-2 附属書 D(参考) 固型化時の管理すべき要件の詳細例

F9Ph2SC21-4-3 附属書 E(参考) 廃棄物の固型化方法の例

F9Ph2SC21-4-4 附属書 H(参考) ピット処分対象廃棄体の輸送に係る技術項目

F9Ph2SC21-4-5 ピット処分対象廃棄体の製作方法及び検査方法(案)

F9Ph2SC21-5 「LLW 廃棄体等製作・管理分科会」の予定案

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 開始時に 15 名の委員の出席があり, 分科会成立に必要な委員数 (12 名以上) を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録(案)の確認 (F9Ph2SC21-1)

事務局より, 第20回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録(案)が紹介され, 承認された。

(3) 原子燃料サイクル専門部会の活動状況 (F9Ph2SC21-2-1)

事務局より、原子燃料サイクル専門部会の活動状況について、説明が行われた。

(4) 標準委員会の活動状況について (F9Ph2SC21-2-2)

事務局より、標準委員会の活動状況について、説明が行われた。

(5) 人事について

① 報告及び承認

事務局より、松澤 俊春氏（東京電力(株)）が常時参加者登録を希望している旨紹介され、決議した結果、常時参加者登録が承認された。

(6) 廃棄物の前処理方法の例

花畑常時参加者より、F9Ph2SC21-4-1 を用い附属書 C “廃棄物の前処理方法の例” についての説明がなされ、下記のコメントを反映することとした。

- ・ 低中圧縮処理の表 C.2 について、対象廃棄物の範囲は、装置内・容器内圧縮式共に同じことが考えられるため、一緒にして、「原理・特徴」の所で、2 方式があることを示した方が良い。
- ・ 低中圧縮と高圧縮の適用区分が、明確でない。種類によるが、低圧縮でも空隙低減の観点からは十分であるが、さらに、減容性を求める場合は、高圧縮を適用することが考えられるなど、説明を追記した方が良い。
- ・ 溶融処理の 1500℃ の出典法規を再確認してほしい。
- ・ 表 C.6 溶融管理条件の出典（JNES レポート分）を再度確認してほしい。
- ・ 表 C.6 は、出典をそのまま引用しているのでなければ、良くまとまっている表なので、注記に編集していることを示すことで対応すればよい。

(7) 固型化時の管理すべき要件の詳細例について

花畑常時参加者より、F9Ph2SC21-4-2 を用い附属書 D “固型化時の管理すべき要件の詳細例” についての説明がなされ、下記のコメントを反映することとした。

- ・ 表 D.1 の放射性廃棄物と分別に関して、注記の出典 D.1.1 の 4 項目と合致していないため、見直すこと。
- ・ 表 D.1 の配合比、練り混ぜは、流動性を得るための管理指標であり、この点に留意したものとすべきでは。
- ・ 出典番号は、簡潔にするためにも、最初に示せば、後は、略しても良いのでは。
- ・ D.2.2 の内容は、矛盾する点を含むため、プレパックドコンクリートの基準の内容であれば、これを分かるようにした方が良い。
- ・ 表 D.2 で、記載目標値以外でも評価すれば、良いことを示した方が、本文の内容に合致する。
- ・ D.2.3 の内容は、角型容器の内容ではなく、ドラム缶の試験結果であることをきちんと示すこと。また、第 3 パラグラフのなお書き以降は、前述している内容と矛盾するため、再考すること。

- ・ D.2.3.1b)の、したがって以降の記載は、不要ではないか。

(8) 廃棄物の固形化方法の例について

花畑常時参加者より、F9Ph2SC21-4-3 を用い附属書 E “廃棄物の固型化方法の例” についての説明がなされ、下記のコメントを反映することとした。

- ・ E.2.1 以降の内容は、附属書 D に組み込んだ方が適切である。
- ・ E.1 の内容は、生かして、附属書の最初の方の全体説明を行う附属書の位置づけとしてはどうか。
- ・ 固型化の「例」とあるが、いくつかの実例からの例のような形で使用する場合は、理解できるが、今回のような先行例がない場合は、ドラム充てんを参考に検討したもののよう表現が適切では。
→ 本附属書は、参考の位置づけで、推奨例を示すものであり、将来的には、この推奨例を踏まえた実績などを反映した上で、規定化するという意味での「例」を意味していると考えられるので、このままでも良いのでは。
- ・ E.1.5 のなお書き以降は、前の文章と異なり、ここだけ丁寧に記載しており、記載の流れを勘案した理由表記などの記載とした方が良いのでは。

(9) ピット処分対象廃棄体の輸送に係る技術項目について

御子柴常時参加者より、F9Ph2SC21-4-4 を用い附属書 H “ピット処分対象廃棄体の輸送に係る技術項目” についての説明がなされ、下記のコメントを反映することとした。

- ・ 本附属書は、廃棄体、輸送容器のいずれを示しているのか明確でない。輸送容器を使用する場合の廃棄体に求められる可能性のある要件を示すのであれば、これを明確にした上で、表記方法を検討すること。
- ・ 表 H.2 の上 2 行と最下段の行の表記方法が異なっており、統一感を持った表記とした方が理解しやすい。
- ・ 最終パラグラフの 625 項から 628 項までの趣旨に読み替えて適用するとあるが、記載しているのは、627 項だけであるので、この点を示すこと。

(10) ピット処分対象廃棄体の製作方法及び検査方法（本文及び解説（案））について

北島代理委員より、F9Ph2SC21-4-5 を用い “ピット処分対象廃棄体の製作方法及び検査方法（本文及び解説（案））” についての説明がなされ、下記のコメントを反映することとした。

- ・ ドラム缶形態の標準への取り込みに関して、適用範囲などに明記すべきである。
→ ドラム缶標準の取り込みのスケジュールを勘案して、表現方法を検討する。
- ・ 解説表－1にある角型容器のサイズは、これだけで良いのか？
→ 現在は、このサイズのみで検討しており、問題ないが、例等の表記を入れることとする。
- ・ 4.2.2.3d)の熔融処理の記載内容が、a)から c)と異なり矛盾している。例えば、処理後の完了指標が「処理後に満足すべき廃棄物の条件」とありながら、運転温度、運転時間が例 2 に示されている。

- ・ 解説表 2 以降の表は、解説とするよりも、附属書に入れるべき内容であり、解説は、その背景などを示すにとどめた方が良い。
- ・ 輸送規則対応に関する方針について言及した方が良い。
- ・ 標識の材料で「マグネットシール」があるが、これは、付着性の良い材料とは言えない。
- ・ ピット処分時に容器にかかる複合的な荷重の評価は必要ないのか。
- ・ 本文に例が多く示されているが、十分対応できる内容と考えられるものが多いので、規定化できるものは、例でなく、規定として示してはどうか。
- ・ 4.2.1.1 と 4.1.1.2 の内容が、整然と理解し難い。較正・表記内容を含めて、事務局で再考してほしい。

(11) 分科会の今後の予定について

竹野幹事より、F9Ph2SC21-5 を用いて、分科会の今後の予定について説明がなされ、了承された。

6. その他

次回分科会は、平成 23 年 1 月 25 日（水）13：30～とした。

以 上